

# Emergency Watch

No.63 Mar. 2016



## 【疾患頻度】

1. インフルエンザ : 1663人  
(A型 651人 B型 766人 確定)
2. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1060人
3. 感染性胃腸炎 : 299人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 178人
5. 気管支炎 : 87人



今年は少し時期が遅く、インフルエンザが大流行していますが、いかがお過ごしでしょうか？2月は神戸こども初期急病センターにも多くのインフルエンザの患者さんが受診されました。集計をみていただいてもわかりますように、今年はA型とB型が混在して流行しています。

さて、最近、中南米で流行していますジカ熱がマスコミ報道などの話題になっています。このジカウイルスは蚊を介して感染するのが特徴ですが、日本でも古くから蚊媒介のウイルス感染症として日本脳炎があります。この日本脳炎に関することをご紹介しますと思います。

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスに感染した豚を蚊が吸血し、その蚊を介して人に感染します。嘔吐や高熱などの症状を伴いますが、有効な治療法はありません。重症化しますと意識障害や麻痺など神経障害を引き起こすことがあります。人から人への感染はありません。1991年以前は年間50人を超える患者さんがいましたが、日本脳炎ワクチンの普及と生活環境の改善により、日本脳炎患者発生は最近少なくなっています。

最近の小児の日本脳炎罹患状況をみると、熊本県で2006年に3歳児、2009年に7歳児、高知県で2009年に1歳児、山口県で2010年に6歳児、沖縄県で2011年に1歳児、福岡県で10歳児、兵庫県で2013年に5歳児の報告があります。また、2015年千葉県において生後11か月児の日本脳炎症例が報告されました。毎年各都道府県で実施されているブタの抗体保有状況をみると日本脳炎ウイルスは西日本を中心に広い地域で確認されています(図)。今まで北海道は日本脳炎の危険性は低いとして、日本脳炎ワクチンは定期接種とされていませんでしたが、今年から北海道も定期接種が実施されることになりました。

蚊を介して感染する日本脳炎の存在が希薄になっていますが、幼児期の予防接種として、忘れずに日本脳炎ワクチンを接種しましょう。現在、日本における日本脳炎ワクチンの1期の標準的接種時期は、初回接種として3歳に達した時から4歳に達するまでの期間に2回、初回免疫終了後6か月以上(標準的にはおおむね1年)あけて1期追加として4歳に達した時から5歳に達するまでの期間に1回行います。

ブタの日本脳炎抗体保有状況(感染研ホームページより)

